

明智地域自治区運営協議会だより

令和6年度第3回明智地域自治区運営協議会が3月26日（水）に明智振興事務所にて開催されました。内容は下記のとおりです。（出席委員数：運営協議会委員21名中19名、オブザーバー2名 傍聴者：2名）

1. あいさつ

【杉山会長】

今年度最後の運営協議会に出席いただき感謝申し上げます。本日は明智町のスポーツ優秀選手の表彰を先に行うためよろしくお願ひしたい。

2. セレモニー

- ・明智町スポーツ優秀選手表彰を体育振興会により実施。36名を表彰。

3. 協議事項

(1) 令和6年度まちづくり活動補助金事業の実績と令和7年度まちづくり活動補助金事業の内示について

【事務局】

- ・資料に基づき、令和6年度まちづくり活動補助金事業の実績及び交付金に係る現時点での実績を報告。
- ・資料に基づき、令和7年度のまちづくり活動補助金に係る単独事業分5事業、連携事業分1事業、自治区への交付金について、補助金内示額を説明。恵那市全体枠の補助金の中で、申請額が補助金額を上回ったため、按分調整を行い内示額となった。

【意見等】

- ・特になし

(2) 地域自治区会長及び運営協議会委員・部会委員の改選状況について

【事務局】

- ・資料に基づき、改選状況を説明。
- ・2月19日に委員選考委員会を開催した。本日はその結果を報告する。次期地域自治区会長は杉山淳氏が継続。運営協議会委員は現行団体を基本とし、吉田地域活性化委員会を加える。部会委員についても現行団体を基本とするが、会議を運営していく中で部会長の判断により追加が可能のため、柔軟な対応をしていきたい。また、副市長を退任される大塩康彦氏を、新たにオブザーバーとして選任する。

【杉山会長】

- ・今回、大塩氏が新たにオブザーバーとして迎えられることについては、複数の関係者からの要望があり、その結果ご本人に打診したところ快諾を得たので、ご了承ください。

【意見等】

- ・特になし

(3) 令和7年度まちづくり懇談会の開催について

【事務局】

- ・資料に基づき、令和7年度まちづくり懇談会開催の概要を説明。市内全地区で令和6年度と同様の形を取り、5月下旬から7月上旬までに開催予定。明智町は6月25日（水曜日）午前9時から開催予定。新年度に入ったら、視察場所や懇談内容等を調整していく。

【意見等】

- ・特になし

(4) 明智中学校閉校事業実行委員会の立ち上げについて

- ・令和8年3月をもって明智中学校が閉校することに伴い、「明智中学校閉校記念事業実行委員会」を地域自治区内に設立する。委員会のメンバーについては会長、副会長、中学校長で協議し、選出する。

【杉山会長】

- ・明智中学校では、航空写真を6月12日（木）に町民も含め撮影する、詳細は広報4月号と同時配布の回覧チラシを参照。

【意見等】

- ・特になし

(5) 明智町新施設の検討について

【事務局】

- ・「明智町の公共施設に関する説明会」を2月13日・14日に昼夜2回ずつ、施設利用者を対象に計4回開催した。参加者は52名。内容は、恵那市全体の公共施設の現状と最適化、明智地域の施設の方針、今後の進め方について説明し、ご意見を伺い、その後、グループワークとアンケートを実施した。次年度は、新施設検討委員会を地域自治区運営協議会役員と施設利用者数名で設立し年度内に地域の意見をまとめ、市に要望をしていきたい。また、同時に地域住民の方、特に若い世代の意見を聞くためのアンケート調査や住民説明会も開催し、その結果も踏まえて委員会でさらに協議していきたい。

【杉山会長】

- ・市内の中で、明智だけかえでホールがあるのはどうか、という意見もある。市役所側の説明で500席あり使用料も高いので、集約し適正規模の使いやすく、使用料の安い施設をつくるという説明があった。かえでホールが残るのがいいが、集約は必要と思う。場所については、浸水区域ではあるが、駐車場も広く慣れている現在の場所がよいと個人的には思っているため、市へ説明をしていきたいと考えている。

【意見等】

【意見等】

- ・特になし

4. 報告・共有事項

(1) 部会開催状況について

○郷土部会（開催日2/12）

【郷土部会副部長 佐々木亀久雄】

- ・令和6年度事業では、岐阜県美術館で開催「清流の国ぎふ」文化祭2024「PARALLEL MODE:山本芳翠展」にて先人学習講座として「山本芳翠」大型紙芝居を披露（参加者120名）できたことがよかった。
- ・来年度事業に向けた協議の中で、委員である中村中学校長より、「中学校閉校に伴い、学校備品のうち地域に必要なものを保存したい」との意見が出された。

(2) 令和7年度恵那市主要事業の概要について

【事務局】

- ・資料に基づき、明智町に関連する事業部分を抜粋し説明。

5. 各種団体・委員さんからのご意見・情報交換

- ・連携事業で上矢作が主体の恵南地区観光DVD作成事業で作られたDVDの活用方法について確認してください。

→DVDは1分および5分バージョンがあり、恵南地域のイベント映像の中で、明智町は「ぎおん祭り」や「納涼花火大会」が収録されている。これらを有効活用するため、恵南全体で議論を進める。

- ・公共施設については、高齢の方の使用が多く若い方の意見が聞けてないとなりましたので、何らかの方法で学生も含めた若い方がどの様に使いたいのかを聞けるといいと思います。

→「あけちだより」などの広報誌にアンケート用のQRコードを掲載し、学校にも協力を依頼してアンケート調査を実施することを検討しています。

- ・社会情勢の変化に対応するためには、各団体が役割を果たしつつ連携し、助け合いながらアイデアを出し合い、共にまちづくりに取り組むことが重要です。
- ・子どもたちが楽しく住みやすい町を目指し、明智を盛り上げる活動に取り組んでいます。商工会青年部の部員減少で課題もありますが、力を合わせて頑張ります。5月25日（日）には千畳敷で「こども相撲大会」を開催しますので、ぜひご協力・応援をお願いいたします。
- ・ロマンカード会は資金不足により存続の危機に直面している。補助金をいただければたすかる。さらに余剰資金があれば明智ならではの特色ある取り組みができればよい。具体的には、学校統合に伴い学童施設を新設し、「明智の学童に通えば英語が話せるようになる」といった他町村との差別化を図るとよい。
- ・地域自治区運営協議会の会議に参加した事で、多くの気付きと学びを得る事ができた。個人の人生も地域も豊かになるようにまちづくりに協力していきたい。

- ・子育て支援はとても大事な取り組みだと思う。80歳以上の方に敬老の日のプレゼントで1000円の商品券を渡したらとても喜ばれた。高齢者にももう少し補助が出る取り組みがあるといいと思う。
- ・これまで、先輩方から色々引き継いできたが、今引き継ぐ人がいない状態になっている。今まで若い方にやってもらっていた事を自分達が継続してやっていかなければならない。社会情勢が変わってきているので、常に自分が引っ張っていくという気持ちで今後も取り組んでいきたい。消防団は恵那に13分団あり、基本団員が700名に減少している。その為、明智と武並分団以外は機能別消防団というOBの消防団員の組織がある。明智もそろそろ検討していこうと思っている。火災が多いため、焚き火はやめていただきたい。
- ・明智町新施設の検討について、できるだけ全員が納得できる結論になる事を望んでいる。例えば、新施設での検討会で色々意見が出ている。その全てを盛り込む事は難しいので、そのどれかを除外していかなければならないのですが、その時に出来るだけ選ばれる事柄が皆によく分かるように、透明性を持って進めてもらいたい。自分も協力していきたい。
- ・公共施設の説明会では、20代・30代の意見がほとんど出なかった理由として、利用団体からのヒアリングに偏っていた可能性があります。お祭りや習い事、夏休みなどで施設を利用する若い世代も多いため、広報を見ない層へのアプローチが必要です。例えば、若いお母さんの団体への直接訪問やチラシ配布で意見を集めることが有効です。また、明智みらい会議では今年度ツアー開催ができなかったものの、空き家勉強会を通じて空き家バンク登録者が増加しました。来年度は空き家ツアーの開催を目指し、ラリーに使われている多額のお金を水回りが整った手頃な物件の改修に予算を割くことができれば、より多くの物件を提供できるようになると思う。若い世代からは「働く場所は後で考えるので、住める空き家を紹介してほしい」との要望もあり、空き家改修への支援が求められている。さらに、他地域から移住定住活動について問い合わせがあり、明智での取り組みが注目されていることを実感した。他地域との連携を進めることで、より良い地域づくりにつなげたいと考える。
- ・地域のお祭りやイベントに参加し、歴史を学びながら楽しい時間を過ごしたとの生徒の声があった。来年度は新入生48名を迎え、全校生徒は140名(定員160名)となる。これまで役員は明智地区の方をお願いしていたが、来年度からは他地域の方にもお願いする予定。これを機に明智の魅力を広める良い機会になることを期待している。また、中学校統合に伴いスクールバスが運行される見込みですが、高校生や地域住民も利用できるよう検討を願う。
- ・明智光秀の家紋である桔梗や、明智の木であるかえでを広く知ってもらうため、地域の企業や観光協会と連携し、まちづくりを進めることが重要。「桔梗の会」では温故知新を理念に、歴史を学び新たな知見を得る活動を行っている。これらの取り組みを通じて地域活性化を目指したい。
- ・まちづくりは継続的な取り組みです。皆さまと協力しながら進めていければよい。
- ・観光協会の理事会に参加し、多様な意見や考え方を共有した。インバウンドが増加している中で、稼げる観光への転換が必要との議論があった。仕事と会議の両立で疲れるが、少しずつできることを進めていきたい。
- ・恵那市で福祉センターのあり方が検討されるようです。やすらぎの里も老朽化がひどく、雨漏りなどがある。公共施設のアンケート結果に避難所として機能を充実させて欲しいとあった。やすらぎの里は福祉避難所となっており先日の停電でお風呂を開放した。今回の公共施設の統合に福祉センターも一体になると避難所としても充実すると思う。常時人の出入りがあり、賑わいにも貢献できると思う。
- ・まいまいクラブの活動は、地域の少子化が進む中でも、子どもたちが楽しめる環境づくりを重視し、イルミネーションイベントを2回開催するなど、住民参加型のイベントを成功させている。吉田地域活性化委員会は、地域の活性化を目指し、多岐にわたる活動を展開している。また、来年度からは地域自治体運営協議会にメンバーが参加し、地域全体の運営にも関与していく予定。同委員会は、吉田小学校と明智小学校の統合を契機に設立された。その一環で始まった「ふれあいサロン」は、80代の方々が中心となり運営されており、月1回の開催で約100名が参加する交流の場となっている。この活動は10年以上続いており、他地域からも学びに来る人々がいるほど評価されている。さらに、「すわがね」の整備事業では、新たな観光施設としてスカイデッキを設置した。ウォーキング大会では山頂でコーヒーを振る舞い、参加者が景色を楽しむ場を提供した。他にもツリークライミングや「わくわくフェスティバル」の開催など、多彩なイベントを通じて地域活性化を図っている。今後、中学校の統合による変化もあるが、新しい取り組みが次々と生まれ、それらを発展させていくことが期待されている。また、表彰された子どもたちのように地域で活躍する人材を育成し、その環境づくりにも力を入れていきたい。

・36名の表彰に感謝。今後ご支援願う。また、3月16日に開催されたクロスカンントリー大会では、1069名が完走。皆様のご協力に感謝。次回は40回記念大会となる。さらに良い大会を目指す。

【杉山会長】

・吉良見ふれあい会館山手の防災対策工事が進んでいる。約10年前、地域自治区運営協議会から吉良見地区に指定難所の整備を要望した結果がようやく実現した。また、以前から要望していた丸八からのカーブにある建物の解体工事についても、令和7年度に予算がつき実施される見込み。さらに、明知城の国指定についてもこの組織からの提案が実を結びつつある。今後皆さんの意見を集め、市や県へ提案を続けていきたい。ご理解とご協力をお願いする。

5. その他

【事務局】

・杉山地域自治区会長をはじめ協議会員、オブザーバーの皆様、今年1年間のご尽力に感謝申し上げます。引き続き委員としてご協力いただける方々には、次年度もお知恵をお借りしたい。また、退任される委員の皆様には、今後も明智町のために引き続き力をかしていただくことをお願いする。次年度の明智振興事務所及びコミセンの職員体制についてお話しさせていただくことをお願いする。先週末、人事異動の内示があった。振興事務所の異動者については、安藤副所長と伊藤主査が異動となった。コミセンについては塩田塾長以下、異動はなかった。新体制のもとで明智町のまちづくりに尽力する。

【オブザーバー伊藤市議より】

・令和7年度は総合計画が終わる最終年度であり、令和8年度の新しい計画を作っていく年。終わりもあるが、次へのスタートの年でもある。中学校の統合についても同じ。先日、中学校の社会の授業で、校舎が廃校になった後をどうするかについて子ども達が考える授業を見学した。子ども達はどうやったら明智が元気になるか前向きに考え意見を出し合っており素晴らしかった。令和8年から新しい計画が始まるが、これまでの計画と何が違うかと言うと、リニア時代に向けて恵那市としてどう備えていくのか。昨年リニアの委員会では北陸新幹線が延伸した敦賀へ視察に行った。敦賀の方達は本当に人が来るのか心配していたが、関東から関西へ行くのに東海道新幹線を使用せず、北陸回りで関西へ行く方が増えている。富山で聞いて驚いたのは、高山へ行くのに名古屋回りではなく、富山から下って高山や白川へ行く。北陸新幹線ができた事により周辺が大きく変わった。リニアが来たらもっと大きな変化があるということ。その時の為に、10年20年先を見据えてどんな準備をしていくのかを考えていかなければいけない。具体的には、明智や近隣地域の魅力をたくさん作り発信することで必ず人は来るはず。

【オブザーバー平林市議より】

・今度の総合計画は20年計画で5年ごとにきりをつけながらやっていく。20年後の恵那市を見据えながらやっていく事が大事。それにしたがって明智地域自治区運営協議会でも第3次の計画ができると思う。安心部会、賑わい・若者部会、郷土部会、それぞれの部会の意見を聞きながら計画を作っていくといい。話し合いに参加することで、自分達が町をつくっているという実感につながるのではないかなと思う。

問い合わせ先：明智地域自治区運営協議会事務局（明智振興事務所内） ☎0573-26-6862

まいまいあけち
maimai akechi



公式HP



akechishin@city.ena.lg.jp